TCシンポジウム2022

K38

製品・サポート情報の
プロジェクトマネジメントを学ぶ、指導する
執筆工程（実践編）

～標準制作工程検討ワーキンググループ公開討論～

①学校教育との差分

2022年10月5日（水）

パネリスト
黒田　聡　標準制作工程検討ワーキンググループ主査
若山　陽介　標準制作工程検討ワーキンググループメンバー
標準制作工程検討ワーキンググループメンバー

アジェンダ

1.小、中学校の国語教育の確認

2.日本語スタイルガイドへの影響

1.小、中学校の国語教育の確認

学習指導要領の変化

■ 学習指導要領とは

- 全国どこの学校でも一定の水準が保てるように、
  文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準
- およそ10年に1度改訂

■ 近年の動き

- 平成20年（西暦2008年）に学習指導要領が大幅改訂
  - ここから「脱ゆとり（教育）」（授業時間増も伴う）
  - 「生きる力」の育成、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成のバランス」
- 最新の学習指導要領（平成29年告示）は平成32年度から実施（西暦2020年、令和2年）
  - 平成20年改訂の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持

■ 国語

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域
- 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱

小学校国語（「書くこと」の指導事項）

下記は学習過程の構成

■ **題材の設定、情報の収集、内容の検討**
- 1、2年：経験したことや想像したことなど
- 3、4年：相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなど
- 5、6年：目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなど

■ **構成の検討**
- 1、2年：事柄の順序に沿って
- 3、4年：書く内容を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落の関係に注意する
- 5、6年：筋道の通った文章となるように文章の構成や展開を考える

■ **考えの形成、記述**
- 自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫すること（学年別の内容は省略）

■ **推敲**
- 1、2年：文章を読み返したり、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりする
- 3、4年：間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめる
- 5、6年：文章全体の構成や書き表し方などに着目して整える

■ **共有**
- 文章に対する感想や意見を伝え合い、よいところを見つけること（学年別の内容は省略）

これらを下記言語活動例を通じて指導している。
- 文学的な文章を書く活動
- 実用的な文章を書く活動
- 説明的な文章を書く活動

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編より抜粋

中学校国語（「書くこと」の指導事項）

下記は学習過程の構成

■ **題材の設定、情報の収集、内容の検討**
- 1年：小学校との接続を考慮して日常生活の中から材料を集めて整理する
- 2年：社会生活の中から多様な方法で集めた材料を整理する
- 3年：社会生活の中から集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にする

■ **構成の検討**
- 1年：段落の役割などを意識して考える
- 2年：段落相互の関係などを明確にして考える
- 3年：多様な読み手を説得できるように意識して論理の展開などを考える

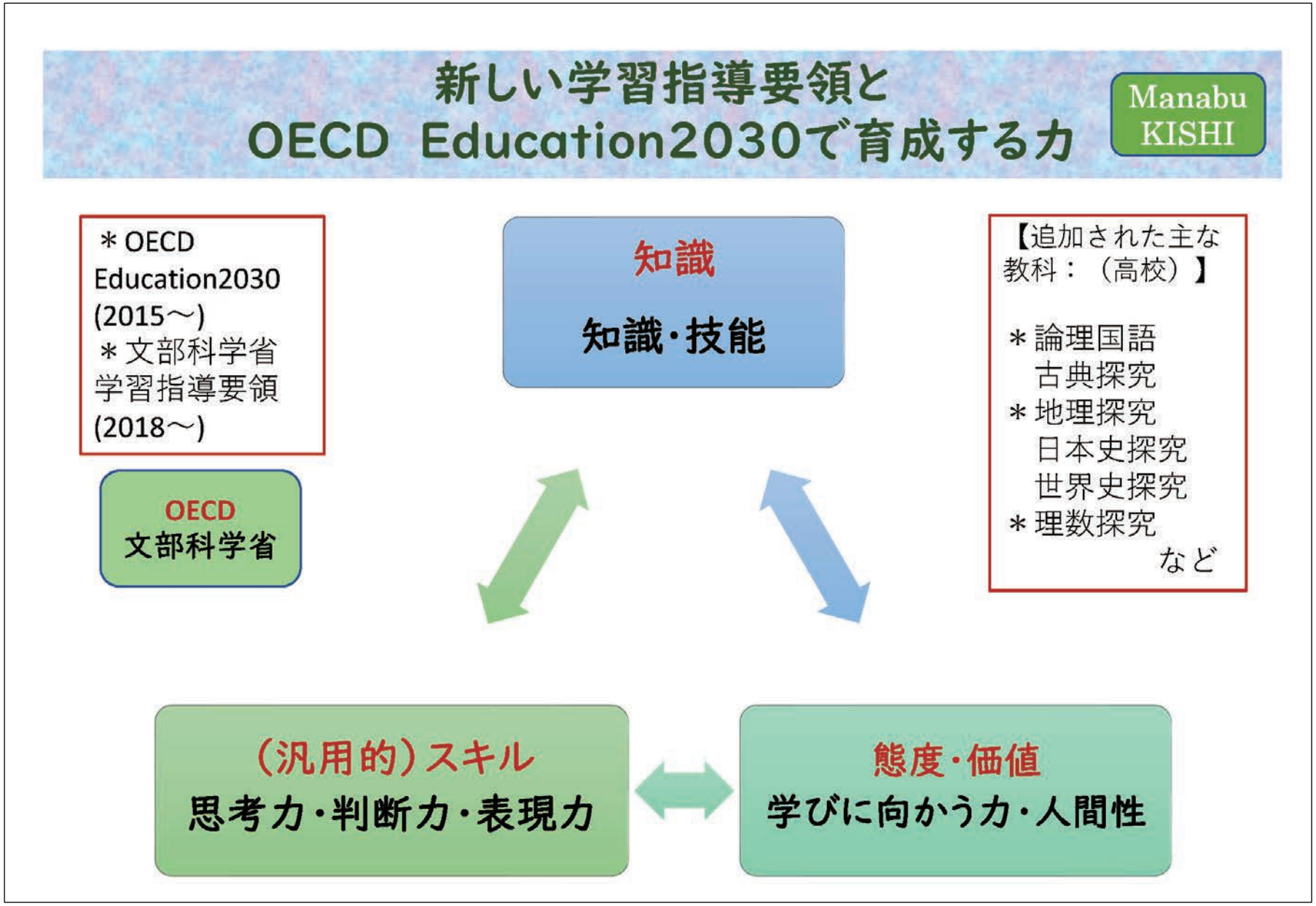
■ **考えの形成、記述**
- 1年：根拠を明確にしながら記述する
- 2年：説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりする、など
- 3年：表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりする、など

■ **推敲**
- 1年：表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめる
- 2年：表現の効果などを確かめる
- 3年：目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめる

■ **共有**
- 読み手からの助言などを踏まえて、文章のよい点や改善点を見いだす（学年別の内容は省略）

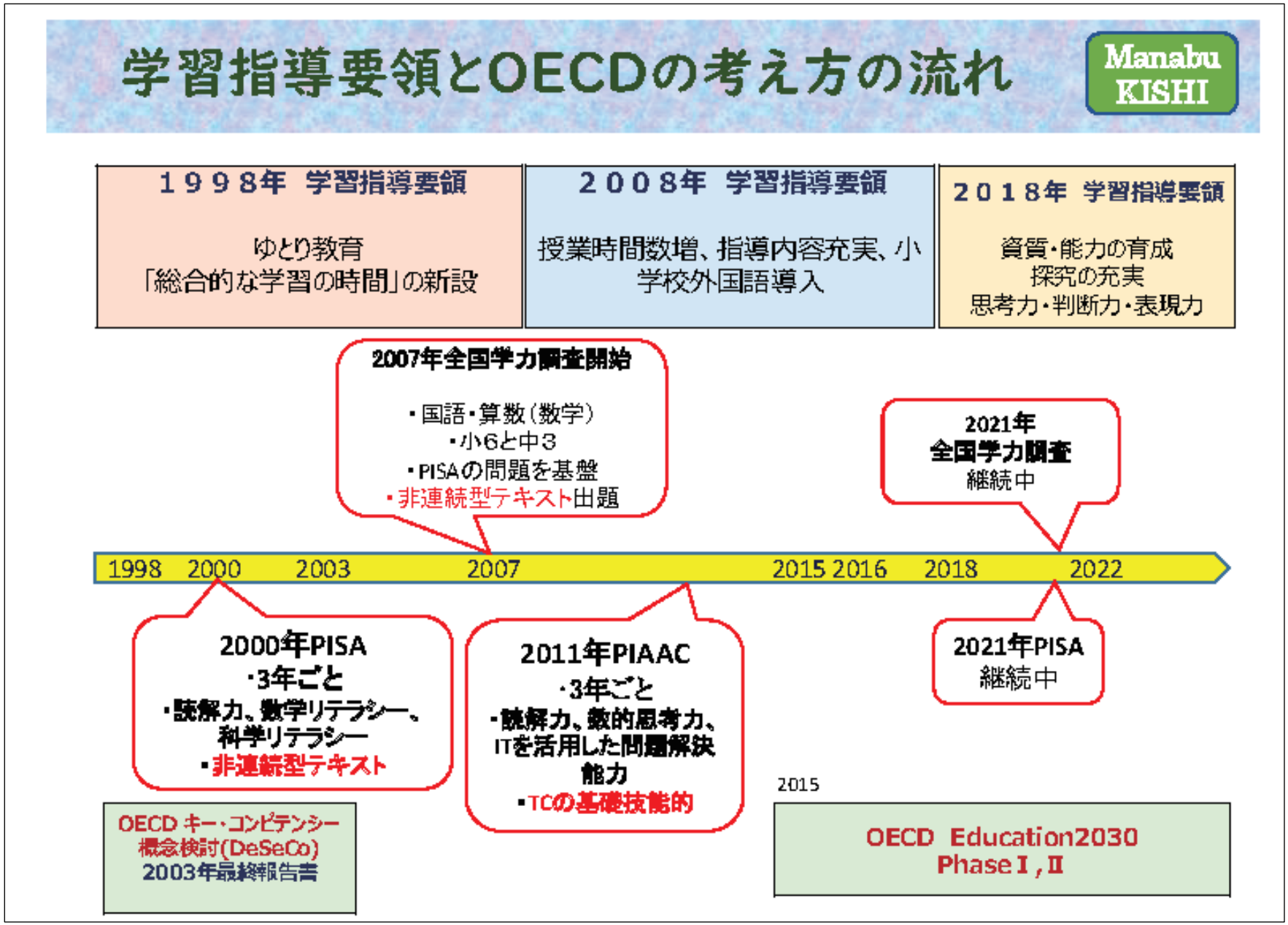
出典：中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編より抜粋

変化の背景



出典：TC協会特別セミナー「認知心理学からTCの基本を確認しよう」

変化の背景



出典：TC協会特別セミナー「認知心理学からTCの基本を確認しよう」

変化の背景

PISAとは？

Manabu KISHI

経済協力開発機構(OECD)が実施

PISA(Programme for International Student Assessment)

読解力・数学的リテラシー・科学的リテラシー・問題解決能力(2003)

2000年から3年ごとに実施　現在も継続中(2021)

国別の結果を公表　⇒　国際比較

出典：TC協会特別セミナー「認知心理学からTCの基本を確認しよう」

変化の背景

PISAの読解力問題の構成

Manabu KISHI

- 読むテキストのタイプ
  - 「物語」「解説」「論証」
  - 文章だけでなく，一覧表，書式，グラフ，図を含む
  - ⇒ 連続型テキスト ＋ 非連続型テキスト（＝混成型テキスト）
- 読む行為のタイプ
  - テキスト（文章と図表）を全般的に理解し
  - 「情報を取り出し」「解釈し」
  - 自らの知識に関連づけてテキストの内容と形式について「熟考し」「自分の意見を論ずる」
- 題材
  - 私的 → 手紙，小説，伝記
  - 公的 → 公式の文書
  - 職業的 → マニュアル，報告書
  - 教育的 → 教科書，ワークシート

授業の仕方は、
「冒頭で説明して、
あとはディスカッション」

出典：TC協会特別セミナー「認知心理学からTCの基本を確認しよう」

国語教育の内容と突き合せた結果

小中学校国語教科書指導書（2社）の内容を元に、日本語スタイルガイド第3版の「執筆」関連の内容が学校教育で教えられているかどうかを確認した。確認できたポイントを列挙する。

第2編　日本語スタイルガイド

- **第1章　文法、用字・用語、表記を理解する**
  - 小中学校にて中心的に学習する内容

- **第2章　読みやすく書く**
  - 文体、能動態/受動態、文末の使い分け例はTCが追加しているスキル
  - 主語と述語を対応させる、句読点を適切に使用する、は小中学校にて学習する内容

- **第3章　誤解されないように書く**
  - TCが追加しているスキル（どういう点が間違いやすいかなど学校では習っていない）

国語教育の内容と突き合せた結果

小中学校国語教科書指導書（2社）の内容を元に、日本語スタイルガイド第3版の「執筆」関連の内容が学校教育で教えられているかどうかを確認した。確認できたポイントを列挙する。

第3編　テクニカルライティング技術の要点

- **第1章　対象理解に基づきコンテキストを組み立てる**
  - 情報を整理する、論理的に組み立てる、事実と意見を書き分ける、は小中学校にて学習する内容

- **第2章　読み手のことを考えたライティング**
  - 読み手の「知識」に配慮する、読み手の「意識」に配慮する、読み手の「心情」に配慮する、は部分的に小中学校にて学習する内容
  - 「認知や行動の仕方」に配慮する、はTCが追加しているスキル

- **第3章　文書（情報）の完成度を高め安定させる**
  - 文章の推敲（校正）は、小中学校にて実践する内容